

【神戸市／神戸市建築協定会】 親子現場見学会を開催

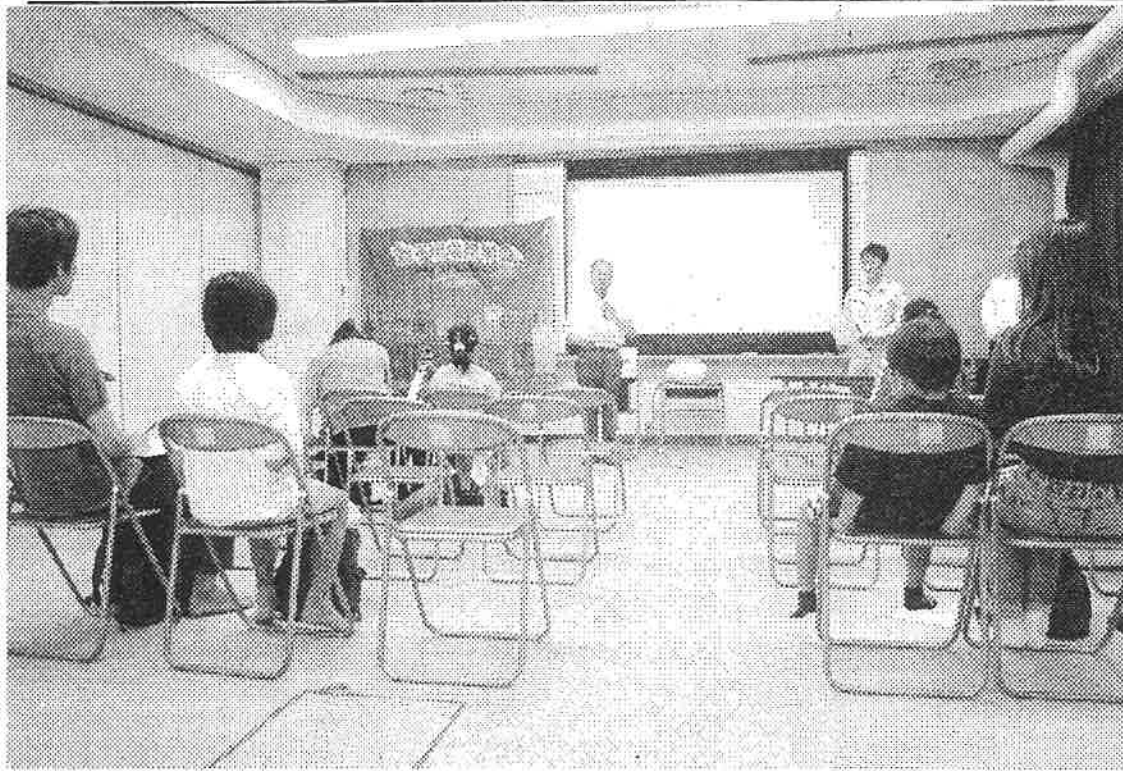
～港島学園 校舎整備工事の現場で～

在校児童と保護者が参加

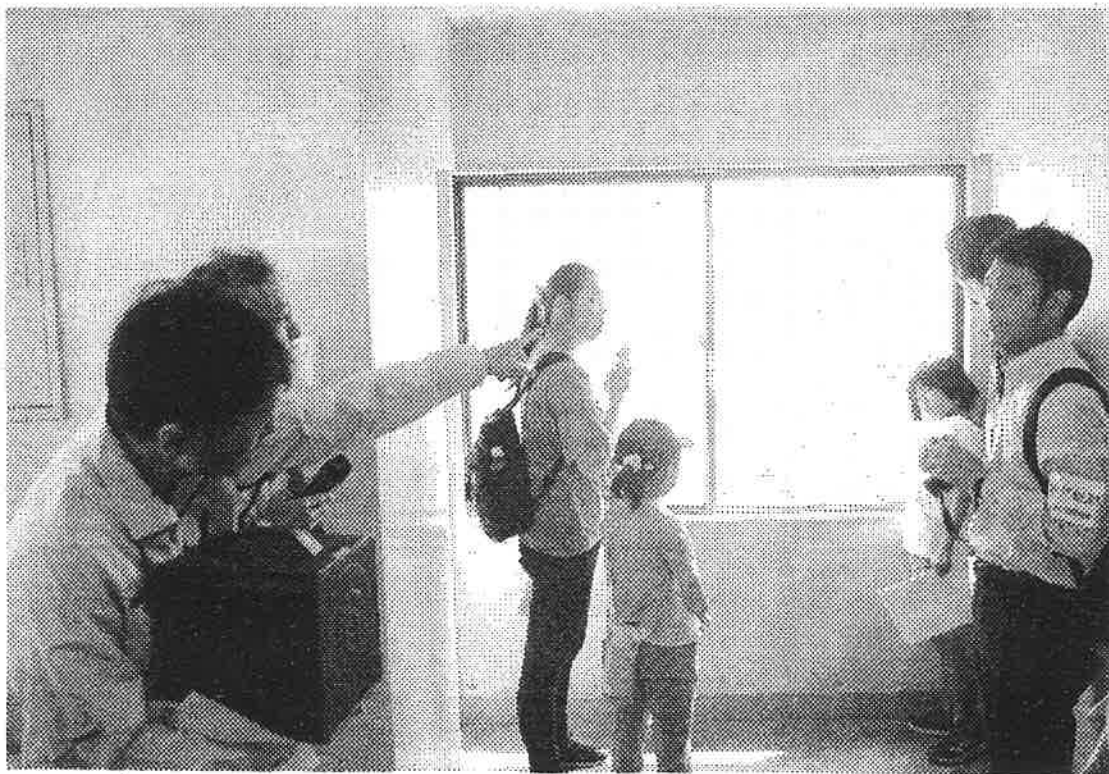
神戸市と神戸市建築協定会は23日、中央区ポートアイランド内の港島学園校舎整備工事建設現場において、小学生とその保護者を対象に、建設業の魅力を伝えるための「親子見学会」を開催した。この親子見学会は、神戸市と神戸市建築協定会が主催となって実施するもので、今回が初めての開催となる。夏休み期間を利用して、普段は見ることでできない工事の中の新校舎の様子やその裏側について体感できる貴重な機会として、建設業に興味を持つ親子のふれあいの場や夏休みの自由研究に活用してほしいと企画された。現場は、神戸市中央区港島中町の「義務教育学校 港島学園校舎整備工事」。工事発注者は神戸市、施工は湊・伊吹特定建設工事共同企業体が担当している。工事概要では、RC造4階建ての新設棟、S造3階建ての新設渡り廊下(2)のほか、増築工事としてS造1階建て昇降口棟、改修工事としてRC造4階建ての北棟(1・2)、南棟、耐震改修工事としてRC造1階建て体育館棟が計画されている。工期は2025年2月26日から2028年8月15日までで、現時点での進捗状況は25%となっている。

見学会に参加したのは、港島学園の前期課程在校生(小学生)とその保護者計約10名。午前10時より港島学園図書館横視聴覚室に集まると、まず神戸市建築協定会の橋本会長が開会の挨拶に立ち、「今日は親子見学会にご参加いただきありがとうございます。今回見学してもらう工事現場ですが、普段は安全のため高いフェンスで囲まれており、今日はその中を見ることができ貴重な機会だと思います。フェンスの向こう側で一体どんなことが行われていて、どんな建物がどんな風に作られているのかを知ることが出来る、ワクワクの時間だと思いますし、夏休みの自由研究の題材にもなるのではないのでしょうか。みんなが通っている学校、家族と過ごすお家、普段遊んでいる公園、駅前にある大きなビル。これらすべての建築物は、そこで仕事をする職人さんや技術者と呼ばれる建築のプロフェッショナルが力を合わせて作っています。大きな機械を自由自在に動かす人、図面通りに材料を組み立てていく人、安全をしっかりと守っていく人、そういう様々な役割を持つ人達が力を合わせて、まるで巨大なパズルを組み立てるように一つの建物を作り上げていきます。その姿はとても格好良く、あの意味、ヒーローのようだと思います。今日はそんなプロの技を見聞きできる貴重なチャンスですので、気になったことや疑問に感じたこと等、どんどん質問していただき、短い時間ですが楽しんで帰って下さい。そして保護者の皆様、私たちが日々携わっている建設の仕事というのは街の安全を守り、人々の暮らしや思い出を未来へつないでいく誇りある仕事だと思っています。今日は、お子さまがものづくりの楽しさに目を輝かせる姿をぜひ見たいのだとともに、建設業界の魅力が少しでも伝われば幸いです」と述べた。

続いて、湊・伊吹特定JVの酒井所長による工事概要の説明の後、全員で校舎南棟4階に移動し、窓から隣の現場を見学した。現場では現在、新設棟の鉄筋組立工事が行われており、窓越しから現場の様子を指差しながら、児童や保護者達に分かりやすい説明が行われた。猛暑の中ということもあり、すぐにまた視聴覚室へ戻ると、今度はライブカメラの映像をスクリーンに映し出し、現場の実況中継に切り替えて、映像を見ながら説明が行われた。普段入ることが出来ない工事現場の模様を実際に撮影しながら酒井所長が解説、なかなか間近で見る機会のない高所クレーンや1・5mを超える太いコンクリートの柱の施工状況などを

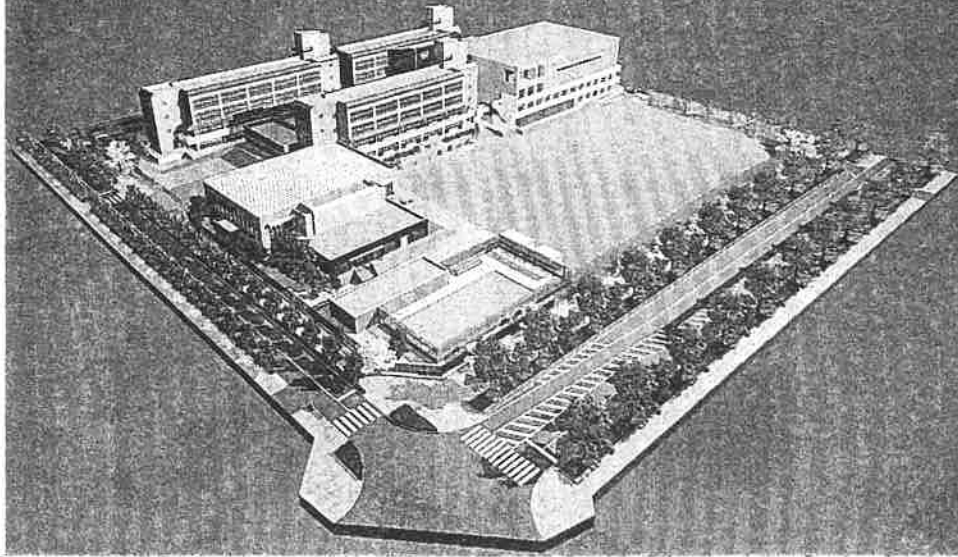


会場の模様 (挨拶する橋本会長)



既存校舎の窓から実際の工事現場を見学

港島学園竣工予定図



親子現場見学会



空調服やヘルメットを身に着けて記念撮影

紹介すると、子どもたちは今しか見れない建設中の校舎の様子を目に焼き付けた。また、この日のために用意された建築現場クイズでは、「コンクリートが固まる前はどんな常態?」「鉄筋を入れないでコンクリートだけで建物を作るとどうなる?」「今日見学した工事の費用はどれくらい?」などの問題に親子で回答しながら真剣にスクリーンを見つめていた。

この後は、神戸市による「神戸市の建物づくりの取り組みを知ろう!」と題した学校以外の施設で近年完成した市の建築物の紹介が行われると、中央区文化センター、垂水図書館、こべっこランド、磯上体育館、歴史公文書館などがスライド上映しながら説明がされた。閉会後には実際に現場で使われている最新型の空調服や転落防止ハーネスの試着体験や、記念写真撮影などが行われた。

参加者からは、「子どもたちが将来通うことになる新校舎の今の建設状況を見学でき、大変面白かった。学校の授業にも取り入れるなど、今後また見学できる機会を設けてほしい」との声が聞かれた。ライブ中継にも参加した建設工業の藤本社長は、「子どもたちや保護者の方に建設現場の様子や建設業の魅力を知ってもらう良い機会になった。ライブカメラを使用した生中継とすることで安全面や熱中症対策の面からも非常に有効な見学会の形が出来たのではない。今後是非こういった建設業の魅力を発進する取り組みを続けていきたい」と述べた。